

以下の通り訂正いたします。

正誤箇所	対応	誤	正
P18	変更	GCMサーバーへのAndroidデバイス接続	<p>Firebase Cloud MessagingへのAndroidデバイス接続</p> <p>※2019年4月11日付けでGoogle Cloud MessagingはFirebase Cloud Messagingに置き換えられます。</p>
P18	変更	Google Cloud Messagingへの通知の送信	<p>Firebase Cloud Messagingへの通知の送信</p> <p>※2019年4月11日付けでGoogle Cloud MessagingはFirebase Cloud Messagingに置き換えられます。</p>
P26	追記	インストールするコンポーネントを選択し、[インストール]ボタンをクリックします。	<p>インストールするコンポーネントを選択し、[インストール]ボタンをクリックします。</p> <p>※Apache HTTP Proxy を選択してインストールすると、インストールされたApache HTTP Proxy をESET 製品がプロキシサーバーとして利用するポリシーが作成され、既定でESMCで管理されるすべてのコンピューターに割り当てられます。不要な場合はApache HTTP Proxyのチェックを外してインストールしてください。</p>
P26	追記	システム要件の確認が行われます。	<p>システム要件の確認が行われます。使用するJavaを選択してください。64bit版のJavaがインストールされている必要があります。Oracle Java以外を使用する場合は、インストールパスを指定する必要があります。</p>
P30	追記	①[製品認証キーでアクティベーション]を選択し、テキストボックスに製品認証キーを入力後、[次へ]ボタンをクリックします。	<p>③[製品認証キーでアクティベーション]を選択し、テキストボックスに製品認証キーを入力後、[次へ]ボタンをクリックします。</p> <p>！重要 「ESET PROTECT Essential Plus オンプレミス」「ESET PROTECT Advanced オンプレミス」のご契約の場合、[後からアクティベーション]を選択し、インストール完了後に「ライセンス管理」画面よりESET Business Accountをライセンスとして登録してください。詳細は、「8.14.4 ライセンス管理」を参照してください。</p>
P30	削除	<p>ワンポイント</p> <p>インストール時にアクティベーションを行う場合は、手順11の操作を行います。</p> <p>「後からアクティベーション」を選択した場合のアクティベーションの詳細については、「8.8.2 新しいクライアントタスクの作成」または「8.8.17 製品のアクティベーション」を参照してください。</p>	削除
P36	変更	Google Cloud MessagingサーバーへのAndroidデバイス接続	<p>Firebase Cloud MessagingへのAndroidデバイス接続</p> <p>※2019年4月11日付けでGoogle Cloud MessagingはFirebase Cloud Messagingに置き換えられます。</p>
P36	変更	Google Cloud Messagingへの通知の送信	<p>Firebase Cloud Messagingへの通知の送信</p> <p>※2019年4月11日付けでGoogle Cloud MessagingはFirebase Cloud Messagingに置き換えられます。</p>
P60	追記	⑥[製品認証キーでアクティベーション]を選択し、テキストボックスに製品認証キーを入力します。	<p>⑥[製品認証キーでアクティベーション]を選択し、テキストボックスに製品認証キーを入力します。</p> <p>！重要 「ESET PROTECT Essential Plus オンプレミス」「ESET PROTECT Advanced オンプレミス」のご契約の場合、[後からアクティベーション]を選択し、インストール完了後に「ライセンス管理」画面よりESET Business Accountをライセンスとして登録してください。詳細は、「8.14.4 ライセンス管理」を参照してください。</p>
P77	変更	Google Cloud MessagingサーバーへのAndroidデバイス接続	<p>Firebase Cloud MessagingへのAndroidデバイス接続</p> <p>※2019年4月11日付けでGoogle Cloud MessagingはFirebase Cloud Messagingに置き換えられます。</p>
P77	変更	Google Cloud Messagingへの通知の送信	<p>Firebase Cloud Messagingへの通知の送信</p> <p>※2019年4月11日付けでGoogle Cloud MessagingはFirebase Cloud Messagingに置き換えられます。</p>
P94	誤植修正	ODBC ドライバー5.3 以上	ODBC ドライバー5.3.10

P94	追記	-	SUSE Linux 11の場合は、パッケージリポジトリに unixODBC_23が含まれる状態にして、unixODBC_23を使用してください。
P96	追記	MySQLのインストール後に、設定ファイルの変更を行います。さらに、MySQLの管理者パスワードを設定します。	MySQLのインストール後に、設定ファイルの変更を行います。さらに、MySQLの管理者パスワードを設定します。ここでは、MySQL 5.6の手順を例に説明します。
P98	誤植修正	mysql-connector-odbc Ver.5.3 以上	mysql-connector-odbc Ver.5.3.10
P101	追記	-	SUSE Linux 11では、unixODBC_23パッケージを使用してください。その場合、更新するファイルは、/etc/unixODBC_23 フォルダにある、「odbcinst_23.ini」となります。
P101	誤植修正	mysql-connector-odbc Ver.5.3 以上	mysql-connector-odbc Ver.5.3.10
P102	誤植修正	xvfb (xorg-x11-server-Xvfb)	xvfb (xorg-x11-server-Xvfb)
P102	追記	openssl (openssl) サポート対象はopenssl-1.0.1e-30以降です。	openssl (openssl) サポート対象はopenssl-1.0.1e-30以降です。 openssl-1.1.*以降はサポートされません。
P104	誤植修正	ERAの言語設定	ESMCの言語設定
P110	追記	サーバー支援エージェントインストールの前提条件 opensslの最低サポートバージョンはopenssl-1.0.1e-30です。	サーバー支援エージェントインストールの前提条件 opensslの最低サポートバージョンはopenssl-1.0.1e-30です。 openssl-1.1.*以降はサポートされません。
P110	追記	オフラインエージェントインストールの前提条件 opensslの最低サポートバージョンはopenssl-1.0.1e-30です。	オフラインエージェントインストールの前提条件 opensslの最低サポートバージョンはopenssl-1.0.1e-30です。 openssl-1.1.*以降はサポートされません。
P119	誤植修正	ERAのレポートをPDFおよびPS形式で出力するために必要なパッケージです。	ESMCのレポートをPDFおよびPS形式で出力するために必要なパッケージです。
P119	誤植修正	ERAにおいての有効なバージョンはQt Ver4.8 (Qt4) となっています。	ESMCにおいての有効なバージョンはQt Ver4.8 (Qt4) となっています。
P167	誤植修正	macOS /Library/Application Support/com.eset.remoteadministrator.agent/Logs/ /Users/%user%/Library/Logs/EraAgentInstaller.log	macOS /Library/Application Support/com.eset.remoteadministrator.agent/Logs/ /Users/%user%/Library/Logs/Eset/RemoteAdministrator/EraAgentInstaller.log
P173	誤植修正	パスワードを変更するには、パスワード変更画面で新しいパスワードを設定し、ERA Web コンソールにログインします。	パスワードを変更するには、パスワード変更画面で新しいパスワードを設定し、ESMC Web コンソールにログインします。

P219	誤植修正	また、エージェントライブインストーラーはERA Web コンソール上で作成し、ユーザーへ配布します。	また、エージェントライブインストーラーはESMC Web コンソール上で作成し、ユーザーへ配布します。
P223	誤植修正	MacOS X 用をダウンロードした場合は、ESMC AgentInstaller.tar が保存されます。また、Linux 用をダウンロードした場合は、ESMC AgentInstaller.tar.gz が保存されます。 .tar/.tar.gz ファイルには、ESMC AgentInstaller.sh が格納されています。	MacOS X/Linux 用をダウンロードした場合は、ESMC AgentInstaller.tar.gz が保存されます。 .tar.gz ファイルには、ESMC AgentInstaller.sh が格納されています。
P225	誤植修正	クライアントコンピュータでESMC AgentInstaller.tarを展開しておきます。	クライアントコンピュータでESMC AgentInstaller.tar.gzを展開しておきます。
P225	誤植修正	ここでは、デスクトップにエージェントライブインストーラー (ESMC AgentInstaller.tar) が展開されていることを前提に解説しています。	ここでは、デスクトップにエージェントライブインストーラー (ESMC AgentInstaller.tar.gz) が展開されていることを前提に解説しています。
P226	追記	「Password:」と表示されたら、管理者パスワードを入力します。	「Password:」と表示されたら、OSの管理者権限パスワードを入力します。
P239	誤植修正	ERA エージェントのセットアップウィザードが起動します。	ESET Management エージェントのセットアップウィザードが起動します。
P248	誤植修正	/var/log/eset/RemoteAdministrator/Agent/trace.log	/var/log/eset/RemoteAdministrator/Agent/trace.log
P248	誤植修正	/var/log/eset/RemoteAdministrator/Agent/status.html	/var/log/eset/RemoteAdministrator/Agent/status.html
P257	誤植修正	Software Center Configuration Manager (SCCM) を使用して、ESET Management エージェントをリモート展開します。	Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) を使用して、ESET Management エージェントをリモート展開します。
P302	誤植修正	・ macOS の場合 /Library/Application Support/com.eset.remoteadministrator.agent/Logs/ /Users/%user%/Library/Logs/EraAgentInstaller.log	・ macOS の場合 /Library/Application Support/com.eset.remoteadministrator.agent/Logs/ /Users/%user%/Library/Logs/Eset/RemoteAdministrator/EraAgentInstaller.log
P366	追記	検出された脅威をクリックし、[詳細を表示]をクリックすると、その脅威の詳細情報が表示されます。脅威がファイルである場合は、[EDTDにファイルを送信]をクリックすると、検出したファイルを分析のためにESET Dynamic Threat Defense (以下、EDTD) に送信するクライアントタスクを作成します。	ESET Dynamic Threat Defense (EDTD) を利用するには、ESMCをV7.1以降にアップグレードする必要があります。
P397	追記	EDTDにファイルを送信	ESET Dynamic Threat Defense (EDTD) を利用するには、ESMCをV7.1以降にアップグレードする必要があります。
P417	追記	ESMC Webコンソールから、EDTD (ESET Dynamic Threat Defense) にマルウェア分析用のファイルを送信できます。	ESET Dynamic Threat Defense (EDTD) を利用するには、ESMCをV7.1以降にアップグレードする必要があります。
P447	誤植修正	GPO (グローバルポリシーオブジェクト) やSCCM (Software Center Configuration Manager) でリモート展開を行うときに必要となる「install_config.ini」ファイルの作成を行います。	GPO (グローバルポリシーオブジェクト) やSCCM (Microsoft System Center Configuration Manager) でリモート展開を行うときに必要となる「install_config.ini」ファイルの作成を行います。
P454	追記	ESET File Security for Linux用の設定は、[ESET Mail/File/Gateway Security for Linux/BSD/Solaris (V4)] を選択してください。	ESET File Security for Linux、ESET Mail Security for Linux、ESET Web Security for Linux用の設定は、[ESET Mail/File/Gateway Security for Linux/BSD/Solaris (V4)] を選択してください。
P517	誤植修正	静的グループからエクスポートしたテキストファイル (.txt) は、ERA コンソールに再度インポートすることができ、既存のグループに含めることができます。	静的グループからエクスポートしたテキストファイル (.txt) は、ESMC Web コンソールに再度インポートすることができ、既存のグループに含めることができます。
P530	追記	EDTDは、初めて出現する脅威に対する高度な保護を提供するサービスです。	ESET Dynamic Threat Defense (EDTD) を利用するには、ESMCをV7.1以降にアップグレードする必要があります。
P531	追記	EDTDに送信したファイルは、「送信されたファイル」セクションでそのリストを確認できます。	EDTDに送信したファイルは、「送信されたファイル」セクションでそのリストを確認できます。 EDTDを使用していない場合はLiveGridに送信したファイルが表示されますが、分析結果は表示されません。 また、ESET Dynamic Threat Defense (EDTD) を利用するには、ESMCをV7.1以降にアップグレードする必要があります。
P535	追記	ESET Business Account- サイトアカウント EBAユーザーにEBAアカウントの会社アクセスで読み取りまたは書き込み権限が付与されている場合、アカウントの同期時にすべてのライセンスがインポートされます。	ESET Business Account- サイトアカウント EBAのサイトアカウントは日本ではご使用いただけません。
P537	追記	ESET Business Accountのライセンスを追加するときは、「ライセンス管理」画面で[ライセンスの追加]をクリックして「ライセンスの追加」画面を表示し、ESET Business Account資格情報を入力して、ライセンスの追加をクリックします。	「ESET PROTECT Essential Plus オンプレミス」「ESET PROTECT Advanced オンプレミス」「ESET Dynamic Threat Defense」以外のご契約の場合、ESET Business Account (EBA) におけるライセンス管理や各種機能はご利用いただけません。

P537	追記	製品認証キーを使用して、アクティベーションを行います。同様の操作で、新しいライセンスの追加を行うことができます。	製品認証キーを使用して、アクティベーションを行います。同様の操作で、新しいライセンスの追加を行うことができます。 !重要 「ESET PROTECT Essential Plus オンプレミス」「ESET PROTECT Advanced オンプレミス」「ESET Dynamic Threat Defense」のご契約の場合、ESET Business Accountでライセンス管理を行うため、製品認証キーを使用してライセンスを追加することはできません。
P545	誤植修正	オンにするとユーザーアカウントが有効になり、ERA Web コンソールにログインできます。	オンにするとユーザーアカウントが有効になり、ESMC Web コンソールにログインできます。
P616	追記	Linux では、サポートされたOS バージョンでOpenSSL 1.0.1以降が使用されていること。(Ubuntu 12.04以降、RHEL/CentOS 6以降、Debian 7.0以降)	Linux では、サポートされたOS バージョンでOpenSSL 1.0.1以降が使用されていること。(Ubuntu 12.04以降、RHEL/CentOS 6以降、Debian 7.0以降) ※openssl-1.1.*以降はサポートされません。
P649	削除	!重要 Windows 版、Linux 版どちらの場合も証明書のCommonNameまたはSubjectAltNameは、MDM ホスト名と一致する必要があります。ESMC Web コンソールで証明書を作成する場合は、「ホスト名」と「共通名」にMobile Device Connector インストール時に設定した「MDM ホスト名」と同じIP アドレス（名前解決ができる環境でホスト名を設定していた場合はホスト名）を設定してください。詳しくはWindows の場合は「8.14.6.2 新しい証明書の作成」、Linux の場合は「3.4.9 Mobile Device Connector のインストール」を参照してください。	削除
P633	誤植修正	※2 すべてのESET Management エージェントが同時にERA サーバーに接続しないように、ランダム化された時間を使用することをお勧めします。	※2 すべてのESET Management エージェントが同時にESMC サーバーに接続しないように、ランダム化された時間を使用することをお勧めします。
P663	追記	ワンポイント セキュリティの警告画面が表示されたときは、[詳細を表示]をタップして、[このWebサイトを閲覧] → [Webサイトを閲覧]をタップすると、手順3の画面が表示されます。	ワンポイント セキュリティの警告画面が表示されたときは、[詳細を表示]をタップして、[このWebサイトを閲覧] → [Webサイトを閲覧]をタップすると、手順3の画面が表示されます。 ダイアログで「このWebサイトは構成プロファイルをダウンロードしようとしています。許可しますか?」と表示された場合は「許可」をタップして構成プロファイルのダウンロードを行い、iOSのホーム画面から[設定] → [一般] → [デバイス管理]でダウンロード済みプロファイル「ESET iOS Management」を選択すると手順3の画面が表示されます。